

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	健生神沢こども発達支援室		
○保護者評価実施期間	2025年3月1日		～ 2025年3月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2025年3月1日		～ 2025年3月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な分野の資格をもつ職員(保育士・柔道整復師・言語聴覚士等)が互いの専門知識を活かし合っており、子ども一人一人の特性に合わせた支援目標を立てることができる。	「月間指導計画」を作成し、各児童に対して毎月、支援内容やその結果の評価反省・次への目標を話し合い、支援の質の向上に務めている。	お互いの専門知識を吸収し合えるような話し合い・研修等を実施していきけるような体系の構築を思案中。
2	各職員の独自性を活かし、様々な視点に基づいて工夫した支援プログラムを提供できる。	各職員が考案・実施した支援内容に対して、他の職員のコメント(良かった点・改善の余地のある点・子どもの様子等)を寄せて、次に活かせるようにしている。	その日の活動について、どんな目的で何を行なうかを保護者にも伝わるように掲示等を工夫していく。
3	同法人グループの保育園(認可保育・企業主導型保育)と連携して、子どもの発達や試験プログラムに関する知識・ノウハウ等を提供し合ったり緊急時に応援を要請し合ったりできる体制がある。	共通の利用児童に関しては互いの責任者・担当者が情報交換をしっかりと行なって、連続性のある支援を提供できるように心がけている。	双方の全職員が共通する利用児童について互いの事業所での様子・過ごし方について周知できるようにしていく

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	周辺地域との関りが少なく、交流の機会がない。	これまで地域と関わったりボランティアの受け入れ・提供をしたりしてこなかったため、経験やノウハウがない。	情報発信や情報収集に努めて、事業所の存在や活動を地域に知ってもらえるように努めていく。
2	保護者向けの研修や保護者どうしの交流の場がない。	・個別の家族支援・面談に重点を置いている。 ・スケジュールの調整が困難。	・需要の把握 ・保護者向けの研修や保護者どうしの交流の場を提供できるような体制づくりを模索していく。